

The Akita University Post



AUPブログ
開設しました



Monday, May 25, 2009 第9号

発行 AUP 秋田大学報道局
主筆 三宅朝子
編集デスク 田代周祐



2009 7 4 Sat
"Natural High"
At studio bar-Yokko
Open / Start 21:00

Live Set
akita jazz society vane and more



仕事への思いを熱く語る。

秋田百聞

3

◆東京に行くきっかけ

秋田にライブで芸能人がたまに来るだろ？高校のときに秋田に来たドリフターズやプロレスやサザンオールスターズを見に行っただよ。彼らのトークがものすごく面白くて、それが衝撃的だったな。それから、高校のときに文化祭の司会をした。

◆秋田から東京へ

最初はやっぱり怖いよ。一番

俺が喋るたびにものすごいウケたんだ。俺はだんだん「面白い番組を作りたい」って思ったから、先生に不思議がられたけど、日大に進学することを決めただ。

◆師匠・高田氏との出会い

この出会いがほんつと大きいね。高田文夫さんの付き人みたいな事をしてただけど、高

違うのはやっぱり人の多さだよ。俺は満員電車が嫌いなんだ。早く車生活したいって思ってた。あと江戸っ子の喋りはすごいよ。テンポが速い。秋田と全然違う。秋田はおっとりしているから。それに落語研究会に入って笑いを学んだときに、速さあって笑いが起こるって気づいたんだ。今、東京で生活してから秋田の友人に会うと「変わった」って言われるし、東京の人には「秋田の人らしくない」って言われる。

◆成功する人、しない人

オリジナリティのある人だな。まだ学生だったオリエンタルラジオのネタを初めてチェックしたとき、「売れる」って思ったよ。印象的なリズムが画期的だった。当時、ケツメイシとかが一世を風靡していた頃だったから、ラップが世間に受け入れられてたまさにその時だったんだ。それに、盛り込まれてるネタもちゃんとしていた。しかも、大学を聞いたら慶応と明治っていうでしょ。面白いと思ったよ。そして彼らは『その時代から』の準決勝までいっていったからね。その後、どんどん売れていった。人と違う事をしなきゃね。音楽に合わせるネタを見せる方法は彼らが初めてだったと思うよ。だけど、飽きは来るし、トレーニングも変わる。だから、新しいものを常に作っていかなきゃ持続しない。その点、小島よしおは売れているのは別にして、常に新しいギャグを考えているという点で、偉いと思うよ。

◆秋田の人へ

メッセージ

なりたいたいものはちゃんと一途にならなないと絶対叶わない。漠然とした希望だけなら、チャンスをつかめない。それから、ある雑誌取材で「秋田はなぜ自殺が多いのか」っていうコーナーに意見を求められたことがある。秋田の人はちよつと暗いと思う、というか明るくない。何でも笑いに変えていくべき。もっと盛り上がりたてよう！

(鎌田 美咲)

元祖爆笑王さん

がんぞばくしょうおう / 本名・高橋裕幸さん。秋田南高校から日本大学芸術学部に進学。大学2年時に放送作家・高田文夫氏に会い師事。大学に通いながらも、放送作家の仕事をごこなしてゆく。「めっちゃ×2イケてるッ!」「爆笑レッドカーペット」など、手がける作品は数多い。

▼まさか自分がこんな目に遭うとは。取得単位数が明らかに足りない。友人たちが楽に単位が取れるよと薦めてくれた好意を「そんな気持ちで授業を受けたくない」と頑なに拒否してきたその奇妙なプライドが、今自分の首を絞めているのだろうか▼最近、新聞で福沢諭吉の『学問のすゝめ』の記事を読んだ。明治5年に初版が刊行されて137年が経つ今も尚、この本から学ぶものは非常に多いと記事は伝えていた。まさに元祖に勝る良書はないということだろう▼私の専攻している分野では、正直、社会に出てすぐに通用する知識はほとんどない。それでも、3年間授業を受けていて、いくつかに残る授業があった。それはどれも、映画や文学や絵画などの文化に触れ、そこに隠された「裏を読む」という作業である。背景やキーワード、モチーフなどを少しずつ読み解き、作業の鍵として用いる。まるで探偵になったような気分だ。また、ある授業で学んだことが別の授業にてその知識が生かされた時などは快感だ▼この快感を、ある教授は「collect&connect」と表現してくれた。自分の手持ちの札を集め、そしてつなげていく。このときに得る達成感こそが学問の喜びだと教えてくださった▼普段の生活に意識を置き換えてみると、意外とこの作業は使えることに気づく。日頃流れるニュース、流行のヒット商品・・・なぜそのような事件が起き、どんな現象がこのヒット商品を生み出したのか。入学前には世の中のあるまを表面上のことだけで受け止めていた幼かった私は、少しだけ、大人になった▼自ら発案し、発見し、発展する。そうすると、世界が広がる。私の考える学問はこんな感じではないだろうか？福沢先生。



新知事は我々県民に何をしてくれるのだろうか？(=秋田県庁前にて)

選挙を考へる

30%台の投票率

これは前回の県知事選の20代前半の有権者の投票率である。これは各年代別に見て、最も低い数字であり、一見して若者の政治離れの様相を呈するもので

先月12日、秋田県知事選挙が行われ、佐竹敏久氏が新しく秋田県知事に選出された。そこで秋田の新体制を迎えるにあたり、私たちが若者と政治のかかわりを検証していく。

ある。そこでAUPでは、大学生や本学の教授の声からその実態を探ってみた。

論点のずれ

このように若者の政治意識の低さを露呈するような数字が出

てしまう背景には、いくつかの理由がある。その中でも秋田大学教育文化学部地域科学課程島澤論議教授の話によると、今回の県知事選挙の各候補者のマニフェストは若者が実際に政治に望むものとは非常にかけ離れている物であったことを指摘。具体的には、農林水産業の推進や経済対策、高齢者福祉の充実など若年層には直接関わりのない事柄が多く、さらに選挙の投票率は若者よりお年寄りのほうが高いため必然的にお年寄りメインの政策が増えてしまう傾向があるのだと言う。そして最後に島澤准教授は「本気で政治に自分たちの望みを託すのなら、政治に積極的に参加することが一番である」と語っていた。

若者が抱く

秋田の問題点

では実際に若者はどのようなことを政治に望んでいるのだろうか。まず学生が望むことで一番切実なものは雇用の拡大を求める声で、世論をよく反映している。また交通機関の整備(電車やバスの増便等)や駅前開発についての考えも多く聞かれた。そして中には議員の給料に言及する意見もあり、意外と若者も秋田の現状についてよく考えている。しかしその反面、政治に望むものは選挙のマニフェストとはかけ離れたものとなっている。

政治とのかかわり

先月NHKの『クロズアップ現代』という番組で、若者と政治についての、特集がされた。内容は秋田県知事選挙を通して若者の政治に対する考え方を紹介していくもので、島澤准教授

守れる命、見過ごさないで。

秋田市で乳がん母の日キャンペーン、秋大看護学生も参加

の授業が紹介されていた。たしかに若者の政治に対する意識は意外と高いのに、今の政治は若者の方を向いていないのは事実である。これが若者の感じる政治に対する無力感なのだ。そして、もともと学生が主体になって声を張り上げ政治に対する意識を高めていかねばならない。(工藤 翔吾)



その日配布した、自己検診用のプレストケアグローブを体験している。(=秋田駅前アゴラ広場にて)

今年10日の母の日、秋田市駅前アゴラ広場にて、あけぼの会による全国一斉「母の日キャンペーン」という乳がんの自己検診・マンモグラフィ検診の啓発キャンペーンが行われた。

あけぼの会とは、乳がんの患者同士が交流を図り、助け合い、励ましあい、情報を交換しながら、生活の質を高めた社会復帰を目指すと共に、自己検診・マンモグラフィ検診・早期受診の啓発運動を行っている、全国規模の会のことである。

今回の「母の日キャンペーン」は、あけぼの秋田のメンバー(乳がん経験者とその家族)、日本放射線技師会秋田県支部や、秋田大学や日赤大学の看護学生などのボランティアメンバーで実

施され、今年でもう25回目にもなる。

会場では、ピンクのワゴン車で先着10人限定の乳がん検診や、乳がんの自己検診法や自己検診の際に使う専用の手袋を添えたティッシュ配りが行われ、積極的に市民にアピールしていく様子に会場全体が賑わいを見せており、1人でも多くの人に乳がん検診を受けてほしいという強い思いが伺えた。

そもそも、乳がんとはどのような病気なのだろうか。実際に病魔に侵された女性の自伝小説や映画「余命1ヶ月の花嫁」が話題となり、名前こそよく聞くものの、その実態については知らないことが多い。日本では毎年約4万人もの女性がこの病気にかかっており、毎年1万人

もの女性が亡くなっている。特に、働き盛りの30代、60代に多くみられ、母が亡くなり、子どもが取り残されるというケースも珍しくはない。他のがんに比べ、乳がんは検診によって探すことができるが、外国に比べると日本の乳がん検診率は低く、秋田も他県より検診率が低いのが現状だ。

このボランティア活動に参加した女性技師の方は、「乳がんの検査方法であるマンモグラフィは、よくテレビなどで痛い」と伝えられがちだが、実際は全く痛くはない。女性の技師も多くのいるので、先入観を捨てて、怖がらず、恥ずかしがらずに検診を受けてほしい。探せるがんで命を失ってほしくない。」と語った。

乳がん患者は手術の後遺症などにより、失うものが多い。傷ついたり、悲しい思いをしたり、精神的ショックが強そうだが、自分自身のためだけでなく、家族等、大切な人のためにも、乳がんの自己検診を受けることをお勧めしたい。

(川村 巴)



新たな協定校獲得に動き出す

—フィンランド、ケミ・トルニオ応用科学大学—

日本の心を共有、 確かな手応え

今年3月の中旬からおおよそ3週間、フィンランドのケミ・トルニオ応用科学大学との協定校を結ぶため、教育文化学部、医学部の合計4名の学生がフィンランドを訪れ、同校の学生と交流してきた。その成果発表会が14日に行われた。プレゼンテーションは英語も交えて行われ、大教室は、日本人学生以外にもたくさん外国人留学生など、海外へ興味を持つ多くの学生たちが熱心に発表を聞く姿が見られた。

この計画は、2008年5月 交流の可能性についての協議が 持ち、実際に留学したいと思うに、実際に本学から教員2名が 行われ、動き出した。協定を結ぶに、学生がいなければ意味がない。フィンランドを訪問し、今後の ぶにあたり、互いの国に興味を そこで4名の学生が、日本の魅



力を伝えるべく、そして、フィンランドの魅力についても実際に感じてくるために、私費短期研修が実現したのである。

国境を越える

「わび・さび」

短期研修ではケミ大学を訪問し、学生たちとの交流を図った。国際言語文化課程の4年次菊地史江さんは、日本から着物を持参し、フィンランドの学生をモデルに着付けさせた。また、医学部2年次草野増佳子さんは、日本の茶道の文化を伝えようと、茶会のシステムを発表し、その後実際に学生に茶の立て方を指導した。

あまり日本との関わりが少ないように思われがちな北欧地域ではあるが、菊地さんは「日本の漫画やビジュアル系バンドなど、様々な日本の文化がこんなにも普及しているのかと思ひ、驚いた。」と話す。食事の面でも米や醤油を手に入れることは難しくなく、現地の食材とアレンジして料理も楽しんだ。

秋田にも似た良好な環境

ケミ大学は、スウェーデンの首都ヘルシンキより、電車で10時間ほどかかる小さな田舎町にある。環境や気候があまり秋田と変わらないところも同校を決めた理由のようだ。主に先頭に立って交渉を続けてきた教育文化学部准教授テリ・リー・ナガハシ氏は、自身がかつてフィンランドへ旅行で訪れた際に、安全、きれいな気候、人、雰囲気などのあまりの良さに感動し、協定校を結ぶならフィンランドで、と考えたという。また、「充実した設備の整ったフィンランドの教育システムが、同じ医学部や工学資源学部を持つ本学の学生にも非常に有意義な経験となると思う」と話した。

秋大生の積極的な渡欧を！

協定校を結ぶと、留学した際には秋田大学との単位の互換制

度や奨学金など、様々な支援を受けられる。詳しい内容が6月25日午後四時から一般教育2号館の教室で説明会が行われる。海外への留学を考えている学生は、積極的に足を運び、参加してほしい。

(三宅 朝子)

動き出せ！秋田県民！

建築家・安藤忠雄氏、講演会

5月10日、秋田市文化会館にて世界的な建築家である安藤忠雄氏の講演会が開かれた。同講演会は大学コンソーシアム秋田の主催により、「不況を乗り越える」地方からの発信」と題され「これからの地方都市秋田の指針」について行われた。

事は考えずにまずぶつかっていいこととする事が必要なのではないか。その為には秋田に対する愛着ももたら一等良。秋田の魅力、秋田に学ぶ事は沢山あるのだから決して難しい事ではない」と感想を述べた。

安藤氏は「都市の魅力にはそこに住む人々の好奇心を持たせる場を創造して行く事が必要である。何か新しいモノを創造する事には障害がつきものであるが、それを乗り越えるにはリアリティのある視点を持ち目的を設定する事だ」と発言し、その為には人にもっと関わりあっても良いと述べた。また現代美術の評価の難しさを例に上げ、学歴や金額といった価値観を突破した感性を磨く事が個人の幸せに繋がるのであり、そうする事で自ずと地域全体も発展すると語った。

安藤忠雄氏は、今後秋田市中通に移転新築予定の県立美術館の設計や、中心市街地再開発全体のデザインを監修することが決まっている。世界的な建築家の監修という事で話題になっているが、これからは、監修という形の秋田への提案に対し観客になってしまいうのではなく、むしろ積極的に働きかけ、より秋田を『自分達の手で』発展させていこうとする意志を持つ事ではないだろうか。開発計画はあくまで媒体であり、実際動くべきはやはり内側、市民である。 (茂木 健介)

また自身の取り組む東京都の元家庭ごみ埋立地に植樹を施す「海の森プロジェクト」については「企業が環境にどう関わるかという一つの形である」とし、来場者からの環境問題への取り組み方についての質問に対しては「地球全体の環境について考えるのではなく自分に素直な同様に従います身の回りの環境を良くしようと思う事が大事である」と答え、秋田市の開発に対する意識との共通性を示した。

ポスターを見て参加したという秋田市の片倉健さんは「近頃人々は気楽に楽しむ事ばかり考えすぎていて、思うに、講演会では『障害を乗り越える』という事について強く語られたが、案をす



安藤忠雄
あんどう ただお

1941年、大阪生まれ。東京大学名誉教授。10代より建築に興味を持ち、独学。28歳で安藤忠雄建築研究所を設立。世界的にも評価が高い、日本を代表する建築家の一人。

AUP Photo Library.



新緑、深まる_____ 教育文化学部前 (報道班 佐藤 禎見)

30年間 ありがとう

大学会館 2階理容室

来月中に閉店へ

手形キャンパスの大学生会館2階にある理容室が、6月をもって閉店することになった。大学会館に店舗を移して9年目となるが、それ以前にも場所を変えて営業を続けてきた理容室の歴史を語る。

生にとっての秋田の母として存在した。「来た時と帰るときで顔

が違う。きつと、何かここで話をしたりできることによつて元気をもらつていくのでしょうか。私もその姿を見て仕事を楽しくすることができて幸せだった。」と話す。理容室を通して大学内で失われがちな、確かな人と人との関わり合いがあり、人が集まつて励まされていくコミュニティがあった。

平成13年10月10日、現在の手形キャンパス大学会館のリニューアルに伴つて大学会館2階で開店した理容室だが、場所を変えながら30年以上前から秋田大学の理容室として営業を続けてきた。今でも学生や教職員に利用され、1人1人に喜んでもらえるように、という想いで今でも仕事を続けている。しかし、法人化に伴い大学で今まで免除していた施設利用料を取らざるを得ない、という事情から営業を続けることが難しくなり閉店することとなった。



ここから何人も学生を見てきた (理容室内部にて)

閉店にあつたのは、利用する多くの方が「まだまだ続けて欲しい」と残念がる。5月の大型連休中に、学生時代に利用していた卒業生が訪ねてきた。卒業した学生は、閉店前に来るこ

AUP INFORMATION

第44回今日歩大会の開催

今年で44回目を数える本大会は、寒風山を深夜にスタートし、秋田大学までの約40kmを歩き切るというものです。

大会日程：5/30(土)～5/31(日)

コース：寒風山(スタート)～追分～土崎～秋田大学(ゴール)

参加資格：秋大生、秋大関係者、高校生以上の一般の方
参加様式：個人、団体(4人1組)。60歳以上の方は、健康診断書が必要です。

参加費：秋大生・秋大関係者 3000円/一般の方 3500円

お問い合わせ・お申し込み：

秋田大学体育会 今日歩大会実行委員会
TEL:018-835-5805(但し平日16:30~18:00)

平成21年秋田大学公開講座 ウィリアム・ホガーズの絵画を読む —18世紀英国の絵画と社会—

日時：6/4(木)～7/2(木) 全5回
18:30~20:00(初日、最終日は20:10まで)

会場：カレッジプラザ(秋田市中通2-1-51 明徳館ビル2階)

講師：秋田大学教育文化学部 准教授 大西洋一

受講料：2500円(5回分)

募集人員：30人(高校生以上の皆様)

申し込み方法：秋田大学社会貢献推進室窓口まで直接お越し頂くか、お電話・FAXで

お申し込み・お問い合わせ先：

秋田大学社会貢献推進室(担当)三浦・武内
TEL：018-889-2270

秋大初！ 学生による 学生のためのセミナー開催



また、実際に秋大で生活してきた先輩学生数名による、実践の発表も企画している。同じ環境で生活してきた先輩は、どのように成長し、そしてこれからどのように歩んでいくのか。自分に置き換えて、ぜひ一緒に未来を考えよう。(三宅 朝子)

あなたが5年後の自分を想像することが出来るだろうか？思い描く未来は人それぞれだが、その「なりたい自分」に本当になるために、一体今私たちは何が出来ようか。そんな、充実した未来を送りたい学生の皆様に、AUP企画「キャリアアップセミナー」をご紹介します。来る6月24日(水)に、仙台市で留学やワーキングホリデーのサポート事業を行っている、浦沢みよこ氏を招き講演会を開催する。様々な職業を経験してきた彼女だからこそ語れる将来設計とは。これから就職活動を控えている3年生、秋田大学の生活をどのように充実していきたいかと悩んでいる2年生、入学したばかりで希望に満ちあふれた1年生。様々な学生にぜひ、参加してほしい。必ず自身の未来への新たな一歩を踏み出すためのヒントが、このセミナーでは得られるに違いない。

とができてよかった、と話していた。「秋田大学に来て一人暮らしをする学生も多く、親の手を離れてどこかで寂しそうに暮らしている人も居たように思う。そんな中、微力ではあるが活気ある大学作りになれたのではないか。今でも発展し続ける秋田大学に、理容室があり、訪ねた学生の成長を支え続けたことを忘れてはならない。(田代 周祐)

この活動をしていなければ出会えなかったであろう人や発見が沢山あった。好奇心と行動力を磨く最良の機会を与えてくれた先輩達や大学の方等に感謝の気持ちでいっぱい。秋大に入学し

編集後記

て3年目にしてようやく自分が夢中になれるものが見つかった気がする。これからこの新聞をもっと素敵なものになりたい！(鎌田 美咲)

日本の心と美の祭典 装いコンテスト東北大会 出場者募集

11月8日 秋田市文化会館

学校対抗(3人1組)で参加

申し込み締め切り：6月末日

まったくのピギナーでも当日まで月3回無料で指導しますので心配ありません。(大学生協やコミュニティーセンターなどを借ります。)

また着物を持たない人でも、振袖、運動用の袴は調達します。

全日本きもの装いコンテスト東北大会実行委員

倉田イサ子さんまでご連絡ください。

Tel. 018-868-1205



秋田大学創立60周年記念 NIKK大学セミナー
もっと英語でしゃべらナイト
参加学生大募集!!
パクンマクンが秋大にやってくる!!
日時 平成21年6月3日(水)16:00~17:30
会場 教育文化学部3-145(60周年記念ホール)
ゲスト パクンマクン
内容 ◆ライブ・英語ショートスクリット
◆パクンマクン
◆模擬授業(秋大宣伝"大"計画!!)
定員 300名(立ち席含む)
参加希望の学生は、学生支援課及び医学部学務課(医学科係・保健学科係)の窓口でチケットを受け取ってください。申込受付は先着順、1人1枚です。チケット配布は5月20日(水)まで。

PAC
Positive, active communication
pac.akitauniv@gmail.com
✔ もっと英語を話したい
✔ もっと世界を知りたい
✔ 世界中に友達が欲しい
上記に当てはまった方、ぜひ PAC までご連絡を
pac.akitauniv@gmail.com